

加州政界爭鬭

日

米

紙

圖

四
朱

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

圖

紙

日本近便 (三月廿五日) (四)

五十萬圓

肖像畫揮毫

小さい腫物の警告なり

△血液不良の表現

妻事此度亡夫才助の遺骨を拂

へ來日出帆の泰洋丸にて歸

致し候浦水中福厚情に預

候の處乍累儀弟に御駕乞旁籠而

懸して丁た漏愛は我が兒を賜

がせた而して甚活動寫眞館に委

士其時から寫眞館に委

士其身を送る例は斯うしたもの

ある知識のみには關係せず現

在するが十四日氏之が寄附金に對

する具體的内容を發表すべしと

福岡市富豪福岡銀行頭取太田

清成氏は既に同市に工業徒第學

校を新設し工業教育の爲貢献せ

方貧士の権益も決して社會に

影響を與へない堂々たる邸

は國體問題などの問題が起り内

には普通選舉などの聲が高く一

金五十萬圓を市の慈善救濟事業

に寄附することに決し目下市役

所側と慈善事業に就き交渉中な

るが十四日氏之が寄附金に對

する具體的内容を發表すべしと

福岡市富豪福岡銀行頭取太田

清成氏は既に同市に工業徒第學

校を新設し工業教育の爲貢献せ

方貧士の権益も決して社會に

影響を與へない堂々たる邸

は國體問題などの問題が起り内

には普通選舉などの聲が高く一

金五十萬圓を市の慈善救濟事業

に寄附することに決し目下市役

所側と慈善事業に就き交渉中な

るが十四日氏之が寄附金に對

する具體的内容を發表すべしと

福岡市富豪福岡銀行頭取太田

清成氏は既に同市に工業徒第學

校を新設し工業教育の爲貢献せ

方貧士の権益も決して社會に

影響を與へない堂々たる邸

は國體問題などの問題が起り内

には普通選舉などの聲が高く一

金五十萬圓を市の慈善救濟事業

に寄附することに決し目下市役

所側と慈善事業に就き交渉中な

るが十四日氏之が寄附金に對

する具體的内容を發表すべしと

福岡市富豪福岡銀行頭取太田

清成氏は既に同市に工業徒第學

校を新設し工業教育の爲貢献せ

方貧士の権益も決して社會に

影響を與へない堂々たる邸

は國體問題などの問題が起り内

には普通選舉などの聲が高く一

金五十萬圓を市の慈善救濟事業

に寄附することに決し目下市役

所側と慈善事業に就き交渉中な

るが十四日氏之が寄附金に對

する具體的内容を發表すべしと

福岡市富豪福岡銀行頭取太田

清成氏は既に同市に工業徒第學

校を新設し工業教育の爲貢献せ

方貧士の権益も決して社會に

影響を與へない堂々たる邸

は國體問題などの問題が起り内

には普通選舉などの聲が高く一

金五十萬圓を市の慈善救濟事業

に寄附することに決し目下市役

所側と慈善事業に就き交渉中な

るが十四日氏之が寄附金に對

する具體的内容を發表すべしと

福岡市富豪福岡銀行頭取太田

清成氏は既に同市に工業徒第學

校を新設し工業教育の爲貢献せ

方貧士の権益も決して社會に

影響を與へない堂々たる邸

は國體問題などの問題が起り内

には普通選舉などの聲が高く一

金五十萬圓を市の慈善救濟事業

に寄附することに決し目下市役

所側と慈善事業に就き交渉中な

るが十四日氏之が寄附金に對

する具體的内容を發表すべしと

福岡市富豪福岡銀行頭取太田

清成氏は既に同市に工業徒第學

校を新設し工業教育の爲貢献せ

方貧士の権益も決して社會に

影響を與へない堂々たる邸

は國體問題などの問題が起り内

には普通選舉などの聲が高く一

金五十萬圓を市の慈善救濟事業

に寄附することに決し目下市役

所側と慈善事業に就き交渉中な

るが十四日氏之が寄附金に對

する具體的内容を發表すべしと

福岡市富豪福岡銀行頭取太田

清成氏は既に同市に工業徒第學

校を新設し工業教育の爲貢献せ

方貧士の権益も決して社會に

影響を與へない堂々たる邸

は國體問題などの問題が起り内

には普通選舉などの聲が高く一

金五十萬圓を市の慈善救濟事業

に寄附することに決し目下市役

所側と慈善事業に就き交渉中な

るが十四日氏之が寄附金に對

する具體的内容を發表すべしと

福岡市富豪福岡銀行頭取太田

清成氏は既に同市に工業徒第學

校を新設し工業教育の爲貢献せ

方貧士の権益も決して社會に

影響を與へない堂々たる邸

は國體問題などの問題が起り内

には普通選舉などの聲が高く一

金五十萬圓を市の慈善救濟事業

に寄附することに決し目下市役

所側と慈善事業に就き交渉中な

るが十四日氏之が寄附金に對

する具體的内容を發表すべしと

福岡市富豪福岡銀行頭取太田

清成氏は既に同市に工業徒第學

校を新設し工業教育の爲貢献せ

方貧士の権益も決して社會に

影響を與へない堂々たる邸

は國體問題などの問題が起り内

には普通選舉などの聲が高く一

金五十萬圓を市の慈善救濟事業

に寄附することに決し目下市役

所側と慈善事業に就き交渉中な

るが十四日氏之が寄附金に對

する具體的内容を發表すべしと

福岡市富豪福岡銀行頭取太田

清成氏は既に同市に工業徒第學

校を新設し工業教育の爲貢献せ

方貧士の権益も決して社會に

影響を與へない堂々たる邸

は國體問題などの問題が起り内

には普通選舉などの聲が高く一

金五十萬圓を市の慈善救濟事業

に寄附することに決し目下市役

所側と慈善事業に就き交渉中な

るが十四日氏之が寄附金に對

する具體的内容を發表すべしと

福岡市富豪福岡銀行頭取太田

清成氏は既に同市に工業徒第學

校を新設し工業教育の爲貢献せ

方貧士の権益も決して社會に

影響を與へない堂々たる邸

は國體問題などの問題が起り内

には普通選舉などの聲が高く一

金五十萬圓を市の慈善救濟事業

に寄附することに決し目下市役

所側と慈善事業に就き交渉中な

るが十四日氏之が寄附金に對

する具體的内容を發表すべしと

福岡市富豪福岡銀行頭取太田

清成氏は既に同市に工業徒第學

校を新設し工業教育の爲貢献せ

方貧士の権益も決して社會に

影響を與へない堂々たる邸



四十九

青々園生作

事にかけて、お蝶は天分があつた。殊に清元は極上の時代から、家元へ通ふ弟子のうちで、上手と云はれて居た。それが芙蓉の座敷で三千歳を彈き語りしたのである。山村をはじめ、藝者や酌ならもシンが鳴りを静めて聞滲れた。それが芙蓉の座敷で三千歳を彈かれて、山の間で、さぞ御聞きづらい事ばかり引あきたなかで、知らず銀之助の方を見向いた。二人の眼がビタリと出合った。山の聲が掛かつた。

「いや、大出で来たので、短いものでも宜いから、何が踊つて御くれ」

「どうも困りましたな、些の歌は載つたので、二人の歌がどうぞ」

「だつて、あればかりの酒で、山の聲が掛かつた。

「山の聲が掛かつた。」

「山の聲が掛けます。」

「山の聲が掛けます。